

群馬県農業信用基金協会

1. 群馬県の紹介

群馬県は、日本列島のほぼ中央にあって、県西・県北地域には山々が連なり、南東部には関東平野が開ける内陸県です。

面積は 6,362.28km²で、その大きさは全国で 21 番目、関東地方では栃木県に次ぎ 2 番目です。

地形は郷土かるたの「上毛かるた」で「つる舞う形の群馬県」と詠われ、羽を広げた鶴の形によく似ています。

群馬県はよく温泉県と呼ばれますが、草津・伊香保・水上・四万の四大温泉があり、国内外からも多くの観光客が訪れています。また、2,000 m級の山岳、尾瀬の湿原、利根の清流をはじめとする美しい大自然と、行政、工業、商業と言った、それぞれの機能をもつ拠点都市が県内に分散し、自然と都市の魅力にあふれています。

群馬を表す「かかあ天下とからっ風」という言葉が有名ですので、女性の強さばかり強調されますが、県民性としては男女共に活発で行動的、大らかなタイプが多いようです。

ここで、群馬県民のあるあるをご紹介します。

① ちょっとの移動でも車を使う。車はひとり 1 台持っているのが常識です。歩いて 2～3 分のコンビニでも車を使います。

② 「上毛かるた」を

暗記している。

群馬県の偉人や

名所がかるたとなった「上毛かるた」があります。小学校時代には地区対抗のかるた大会もあり、大会が近くなると連日練習に励みます。そのおかげで大人になっても「上毛かるた」を暗記しています。

③ 「起立！注目！礼！」何か変ですか？

小学校では「注目！」の号令で先生を見なければ叱られます。他県では「注目！」がないそうですね。

④ 中学生はジャージで登校。

中学生は制服で登校せず、基本ジャージ登校です。大人になってから他県では制服登校と聞いてカルチャーショックを受ける人が多くいます。



2. 群馬県の農業

群馬県は、雄大な山々を背景に豊富な水資源、全国トップクラスの日照時間、標高 10 m 台の平坦地から 1,400 m 台の高冷地まで広がる耕地を有しています。また、東京から 100km 圏内に位置し、高速道路や鉄道網の整備により交通の要衝として発展し、その有利な立地条件を生かして、多彩な農業が営まれています。特に野菜や畜産の生産が盛んです。

群馬県の食料自給率は 33%（平成 30 年度

カロリーベース）と低い水準です。これはカロリーの高い米の生産が少ないこと、カロリーの低い野菜や計算上カロリーの低い畜産（飼料の大半が輸入）が盛んであること、海が無く水産物が少ないこと等のためです。

群馬県の農業産出額は 2,361 億円（令和元年度）であり、その構成は野菜と畜産物で全体の約 8 割を占めています。野菜では、生産量全国第 1 位を誇るキャベツや全国第 2 位の

きゅうり・ほうれんそう、畜産では乳用牛や豚等、全国トップクラスの生産量・飼養規模を誇る品目が多数あります。また、工芸農産物であるこんにゃく芋は、全国第1位でシエ

ア90%以上を誇ります。その他、粉食文化を担う小麦をはじめ、下仁田ねぎ、繭と生糸、椎茸や舞茸、ニジマスやアユ等、特色ある農林水産物の生産も盛んに行われています。



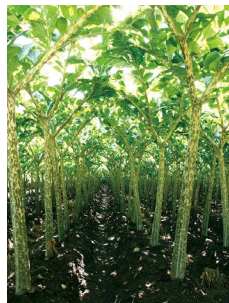
孺恋高原キャベツ

孺恋村は夏秋キャベツの産地として有名です。7月から10月末にかけて約1億5000万個のキャベツが作られています。



きゅうり

群馬県の平坦地を中心に栽培され、冬期の豊富な日照時間を活かした促成栽培と夏秋期の抑制栽培を組み合わせることで、ほぼ1年を通して出荷されています。



こんにゃく畑

全国トップクラスの日照時間、水はけのよい土壌をいかして「こんにゃくと言えば群馬」の地位を確立しています。



豚肉

消費者ニーズの多様化が進むなか、県内には30種類以上の銘柄があり、その品質を競い合っています。

3. 群馬県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事11名（うち常勤1名）、監事3名の役員14名、職員12名（うち嘱託職員2名、派遣職員1名）で、総務部、業務部、債権管理部の3部体制で業務運営を行っています。



4. 群馬県農業信用基金協会の活動

当協会では、今年度下期に導入される保証審査システムに先立ち、平成29年4月より小口ローンを対象にWeb保証申込システム、平成30年4月より住宅・小口ローンを対象に他県協会と共同開発した保証審査システムを導入し、審査の迅速化・適正化及び保証機関としての競争力強化に努めてきました。

また、農業資金についても保証料率の軽減対応や書類の簡素化などに取組むとともに、新型コロナウイルス対応として運転資金や既往資金の条件緩和対応等、農業者に寄り添っ

た対応を行っています。

これにより、令和3年12月末現在の保証残高では1,450億円（前年同期比107.6%）と過去最高の保証残高となりました。

現在、新型コロナウイルス感染症や家畜伝染病、更には輸入自由化などを要因に農業経営に深刻な影響がおよんでいます。融資機関や関係機関との連携を強化し、融資機関に信頼される保証機関を目指していきたいと考えています。